

梅

枝

シテ 広島 克栄

ワキ 殿田 謙吉

ワキツレ 北島 公之

ワキツレ 渡貫 多聞

間 炭 哲男

大鼓 飯嶋六之佐
小鼓 住駒 俊介

笛 高島 敏彦

後見 松田 若子
福岡 聡子

地謡

水口 純治 高橋 憲正
船本 嘉人 渡邊 荀之助
山崎 健 渡邊 茂人
藪 克徳 佐野 玄宜

休憩 二十分

岩 船

(連吟)

谷 清士
長野 裕
酒井 章
高野 秀幸

謀生種

甥 若生 敏郎

叔父 能村 祐丞

(能)

後見 炭 光太郎

小蝶 木谷 哲也

ツレ 田屋 邦夫

頼光 島村 明宏

シテ 佐野 弘宜

蜘蛛

ワキ 平木 豊男

ワキツレ 北島 公之

ワキツレ 渡貫 多聞

大鼓 田中 一義 太鼓 大橋 紀美
小鼓 多田 順子 笛 後藤 尚志

土

間 清水 宗治

後見 佐野 由於
高橋 憲正

松田 若子

福岡 聡子

地謡

米島 和秋 渡邊 茂人
山本 貢伸 藪 俊彦
笠間 啓 高橋 右任
松本 博 佐野 玄宜

能梅枝 (うめがえ)

甲斐の国身延山から出た廻国修行の僧たち(ワキ・ワキツレ)が摂津の国住吉の里に着き、一夜の宿を借りた庵で太鼓と舞衣裳を飾る女主人(前シテ)の哀れな物語りを聞かされます。昔、富士と浅間の二人の伶人が管絃の役を争い、討たれた富士の妻は別れを惜しみ、死ぬまで常に形見の太鼓を打って心慰んだという話です。妻との縁を否定した女は、しかし恋慕の涙に沈み、執心をお助けくださいという話で消えます(中入)。女人成仏を説く法華経を読んで僧たちが富士の妻を弔うところへ、夫の舞衣裳を着た化女(後シテ)が現れます。夫との死別ゆえの恋、自らの死後も断てない片思い、悪趣に堕ちた原因をそれと知りつつ、女は執心を晴らせません。僧たちの勧めもあり幽霊は懺悔の舞を奏でることにします。夫の舞い姿をわがものとするので愛着は捨てられるかに見えましたが、悟りはついに訪れません。越天楽今様を旋律にまで取り込んだ、〈富士太鼓〉の後日談です。

狂言 謀生種 (ほうじょうのたね)

嘘の巧みな伯父と挑戦する甥による作り話の競争です。富士山に紙袋を着せる話には琵琶湖の水を茶に立てて飲み干す話。印南野に寝て淡路島の草を食う牛の話には三里四方の太鼓の話。そんな太鼓に張る皮がなからうと言えば、そなたの言うた印南野の牛の皮よと言い負かされます。降参した甥は嘘の秘訣を教わり、謀生の種という嘘の種を庭土を掘り返して探しますが、種のあること、埋めたことが、すでにこれもが伯父の嘘でありました。

能土 蜘蛛 (つちぐも)

大江山や羅生門の鬼退治で知られる源頼光(ツレ)は病床にあります。侍女の小蝶(ツレ)が典薬の頭から薬を持ち帰り見舞いはしても、頼光は死期を待つ衰弱ぶりです。深更に及び、怪しい気配がして僧(前シテ)が訪れたかと思うと、僧は蜘蛛の糸を千筋に投げ頼光の五体を締め付けて苦しめます。化生と見て取った頼光が宝刀膝丸で斬り伏せる(以後宝刀を蜘蛛と改名します)と、大きな叫び声を残して僧の形が消えます(中入)。急を聞いて駆け付けた独武者(前ワキ)は劍の奇特を称え、血の跡をたどって化け物退治に出掛けます。独武者ら(後ワキ・立衆)がたどり着いたのは葛城山に住む土蜘蛛の塚でした。塚を崩し石を裏返すと火水を放つ鬼神(後シテ)が正体を現します。鬼神は大昔から葛城山に住む土蜘蛛の精魂を名乗り、君が代に障りをなすために頼光に近づいたといいます。蜘蛛の糸を投げて抵抗する土蜘蛛を、独武者率いる官軍が苦戦しながらも劍の威徳で平らげます。

(金沢大学人間社会学域教授 西村 聡)

次月の予定 令和二年十一月一日(日)午後一時始

(能) 三輪 (狂言) 蟹山伏 (能) 鶴